



こんにちは。
町長です。

島根県邑南町(おおなんちょう)のまちづくりに学ぶ

島根県邑南町という人口約1万人の町が、今、地方創生の旗手として全国から注目を浴びています。私は埼玉県町村会の視察で2年ほど前に訪れたことがあります。

邑南町は、2004年(平成16年)のいわゆる「平成の大合併」で羽須美村、瑞穂町、石見町の三町村が合併して誕生しました。現在の高齢化率は40%を超える過疎の町で、小鹿野町と似ている部分があります。

しかし、邑南町は5年間平均で合計特殊出生率が2.0を超えたことがあり、Uターン・Iターン者は2015年度には100人と島根県内の町村では突出した実績を残したこともあります。

邑南町は若い人を呼び戻すために、魅力的な町づくりに舵を切り、2011年(平成23年)より若者をターゲットにした特に2つのプロジェクトを進めました。

その一つが「日本一の子育て村構想」です。中学校卒業までの医療費無料化、第2子から保育料は完全無料化という施策を全国に先駆けて実施いたしました。小鹿野町でも子育て支援につきまちは、現在、高校生(18歳)までの医療費無料化、小中学校の給食費、教材費の無料化などをはじめとする手厚い施策を実施しており、その充実度は埼玉県下でもトップクラスであると思います。

二つ目が「A級グルメ構想」です。A級グルメ構想は「本当に美味しいものは地方にあって、本当に美味しいものを知っているのは地方の人間である」をコンセプトとしており、この構想は「食」と「農」に関わる人材を育て、移

住者、観光客(交流人口)も呼び込み、起業・開業につなげて、地域経済を循環させていく戦略です。邑南町でも、このA級グルメ構想にたどり着くまでには様々な失敗を重ねながら、ようやく成功に結びつけたとのこと。この成功に結びつけた大きな要因としてマーケティング戦略をしっかりと立てたことであると言われています。

小鹿野町も先駆的な取り組みをしている邑南町に学ぶべきところがたくさんあります。特に地域経済循環については多くのことを参考にして、これからの施策を実施していかねばならないと考えております。昨年立ち上げた「株式会社地域商社おがの」と連携して、町のブランド力をあげ、しっかりとしたマーケティング戦略を確立することは急務の課題であると思います。

地域商社の今後でございますが、令和4年4月より、道の駅両神温泉薬師の湯周辺施設の指定管理を受けていただく予定です。民間感覚を取り入れた経営に移行することや、長年の懸案事項である駅長の配置を進めていただくことにより、経営の改善が図られることを期待しています。地域商社が設立されたことにより、町の貴重な財産である町有観光施設の経営健全化が図られ、将来的にも施設の運営が継続されることが期待されておりますが、地域商社の発展は、観光施設運営のみならず、町の発展に大きく寄与するものと考えます。町でも全面的にバックアップしながら良い関係を保ち、諸事業を発展させていくことが必要であると考えております。

小鹿野町長 森 真太郎